

ザ・チャレンジ

(大学受験編)



今シーズンの大学入試も、国立後期試験の発表を残すのみとなりました。多くの受験生が闘いを終え、「大学」という新たなステージに進みます。その一方、新高三生は新たに「受験勉強」という闘いを迎えます。その中でよく言われるのが、「早期の基礎固め」という言葉。具体的にまず何に取り組むべきなのでしょう。主要3教科について、簡単に紹介します。

【英語】
単語・熟語・文法・構文、いわ

Q. 「基礎固め」具体的には？

ゆる「知識」の習得がまず必要です。特に、センター試験レベルの英単語(約1800)や英熟語(約750)は早期に完全に暗記しましょう。ただし一度覚えても忘れることが多いので、毎日一定数を決めて復習することが大切です。多くの難関大合格者は、入試が終わるまで復習し続けています。

【数学】

既習範囲、つまり数I・Aや数II・Bの復習を行う必要があります。特に教科書に載っている問題を確実にこなし、公式や解法の原理をきちんと理解して先に進むことが大切です。そうしないと、出題方法が変わったときに、本質的な理解ができていないので、失点してしまいます。自分が理解できていない単元を分析し、その部分から重点的に復習していきましょう。

【国語】

「漢字」は知っていれば確実に

A. 「知識」の習得と復習

得点できるので、早期に問題集を仕上げましょう。また、「現代文用語」も知っておくと、評論文や小説文を読むときに理解が深まります。古文では、「古文単語」や「古典文法(特に助動詞)」の暗記が大切です。特に文法では意味を覚えるだけではなく「紛らわしい語との識別」の理解が重要なポイントです。



「基礎固め」が完了し、演習をしていくと、問題が解けるようになり、だんだんと勉強も面白くなります。同時に成績も上がっていきます。それができて初めて本格的に「入試対策」にとりかかることができるのです。また「基礎固め」が済んでいない人、あるいは勉強はしていてもなかなか点数が上がっていない人は、自分の「基礎固め」について、もう一度考えてみてください。

(CG高等館 東進衛星予備校)